

平成24年度第1回大和高田市文化財保護審議会

平成24年10月31日午後7時00分～

於：大和高田市立中央公民館 2階 第1講座室

出席者

(委員) 浦西委員、平林委員、泉森委員、櫻井委員、高橋委員、玉井委員、水本委員

(欠席：東委員)

(行政) 土谷教育長、田中事務局長、米田課長、福西課長補佐、前澤係長

- 1 開会の辞 米田課長
- 2 開会のあいさつ 浦西会長
- 3 教育長挨拶
- 4 事務局紹介 本会の成立を宣言
- 5 議事

(1) 土庫弥勒寺 弥勒仏坐像の重要文化財指定について

事務局

平成23年、弥勒仏座像が県文化財に指定された。しかし安置している本堂の痛みが激しく、万が一の場合、弥勒仏坐像に被害がおよぶ危険性があった。

像を奈良国立博物館に寄託する案も出たが、本堂を収蔵施設として修理し、弥勒寺で安置していくことが決まった。本堂修理にあたって像を奈良国立博物館へ移したところ、多くの研究者の目に留まることとなり、東京国立文化財研究所で詳細な調査をすることになった。この結果、平成24年3月に国の重要文化財に指定された。

今後、大和高田市にある文化財として、どう保護・活用するのか模索していきたい。文化庁は、平成25年、26年で弥勒仏坐像を修理する予定である。修理法は検討中であるが、江戸時代に仏像全体に施された大規模な改修をどのように平安時代の姿に戻すかが大きな問題点となっている。

委員

県指定から国指定に評価されていくのは非常に珍しい例だと思う。東京文化財研究所の国指定にする際の調書や、調査結果といった資料は、市教委としても持ってほしい。地元で資料があるということに意味がある。

また万が一の地震や火災などに対し、どう対応していくか十分検討していただきたい。

事務局

弥勒仏座像は6月の市広報誌で紹介した。今後公開について、専門家の意見を聞いて考えていきたい。

(2) 土庫の弥勒寺本堂修理完成について

事務局

弥勒仏坐像が県指定されたのを契機に、23・24年度の2カ年にわたり像を安置する収蔵施設として、本堂の修理を進めてきた。修理の補助金は、県の文化財保存課主導で様々な分野から1770万ほど集めた。修理は今年の2月に始まり9月末に完了した。

委員

23年度24年度の市の補助金の額は？

事務局

23年度は93万3000円、24年度が142万6700円、合計で235万9000円。しかし市の総限度額が200万なので、今年は106万7000円となった。

委員

維持管理や防犯設備の問題などを考えると寄付金を集めてはどうか。

修理中に出た棟札や墨書等の簡単な報告書を作ってほしい。

事務局

堂建設の際、土庫村から寄進があったとする墨書が出てきたので報告書を作成したい。

(3) 近代化遺産総合調査について

事務局

県教育委員会から、近代和風建築の調査に続き、これまであまり注目されてこなかった幕末から第二次大戦終戦までの間に建設された洋風意匠の建築物や産業、交通、土木に関する建築物、構造物など、近代化産業遺産の総合調査の委託がきた。

近代化産業遺産は、老朽化や災害などにより急速に失われつつある。県の近代化に係る建築物、構造物についての所在や残存状況、保存状況について把握及び記録し、価値について言及して形体意匠上優れたもの、歴史的な重要なものについて保護処置をするものである。

市町村ごとにデータを作成、県へ報告する。報告されたデータから物件を再抽出し、調査図面を作成するなどして、報告書を作成して関係機関へ配布し事業は終了する。

大和高田市においては、前澤係長と市民団体の夢咲塾メンバーであり奈良県建築士会会長の上島晴久さんの二人が調査担当している。

調査例としてJR高田駅プラットホーム、JR桜井線第130号橋梁（通称ねじりまんぼ）がある。

なお県の近代和風建築報告書に銭湯・松湯、増井家住宅が載せられることになった。

委員

調査の期間はいつまでか。

事務局

今年度迄で、すでに40件ほど報告し、現在補足調査中である。

委員

2人での調査には範囲が広いので、地元の力を借りるのがよい。

市町村から情報を集めるということは、5年～10年のうちに近代化産業遺産の文化財指定を考えているのだと思う。調査に励んでもらいたい。

(4) その他

事務局

ここ数年の間、市民の間から大和高田市に来られる観光客に観光ガイドをするボランティアガイドを立ち上げてほしいという声がでてきた。市では、生涯学習課と文化振興課と市民団体・夢咲塾の三者がガイド立ち上げに名乗りをあげている。来月に三者が立ち上げに向けての話し合いをする予定である。周辺の市町村も観光ボランティアを持っており大和高田市もそれに追随したい。

委員

ガイドの費用を取っている自治体もあるが、料金を取るとガイドもより真剣に勉強し説明すると聞く。

ガイドを募集すると応募は多いと思う。案内を大和高田市だけとするか、少し広い範囲にするか、また任期、案内の仕方や服装等、決めなければならないことは多い。

学校では、地元の歴史や文化財について教える機会は少ないという。地域人の目で地域の歴史を見ることは大事である。ガイドには地域の教材を使った研修を持ってほしい。

高田高校の教員から、大和高田市の歴史について教えてほしいという依頼が夢咲塾に来た。ボランティアガイドにもこのような依頼は来て、郷土史家の一員として重用され、市の活性化にもなろう。